



色再現性が高まった24インチ ColorEdgeとLED化したデスクスタンドが登場!

EIZO ColorEdge CX241-CNX & Z-80pro-EIZO

発売日: 2014年4月24日 実勢価格: 123,000円前後 (CX241-CNXのEIZOダイレクト価格)
 レタッチやプリントをする人には必須といってもいいColorEdgeシリーズ。今回は使い勝手の良さと人気の24インチシリーズと、デスクスタンドがバージョンアップした。どこが変わったのかをみていこう。 レポート: 榊 信康 写真提供: 吉村和敏

SPECIFICATION パネル:IPS (ノングレア) / サイズ:61cm (24.1インチ) / 推奨解像度:1,920×1,200 / 視野角:178度 (水平/垂直) / 輝度:350cd/m² / コントラスト比:1000:1 / 入力端子:DisplayPort×1, DVI-H×1, HDMI×1 / 大きさ:575 (W) ×417 ~ 545 (H) ×245.5 (D) mm / 重さ:約9kg

CX240からCX241への進化ポイント

1 Adobe RGBの再現率がアップ

CG247とCX241がカバーする色域はAdobe RGBのデータでもほぼ遜色なく色を再現できる。NTSC比で110%、DCI比で95%を確保しており、映像制作でも存分に活用できる。

Adobe RGBの色域
 CX241のAdobe RGB色域

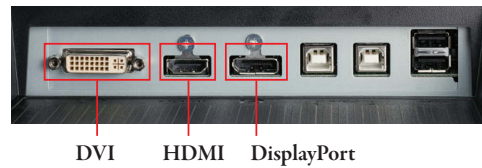
| | CX240 | CX241 |
|---------------|-------|-------|
| Adobe RGBカバー率 | 97% | 99% |

僕の写真はAdobe RGBが多いので、再現率が高いほど助かります



EIZOのColorEdgeシリーズといえば、キャリブレーションセンサー (あるいはコレクションセンサー) を内蔵することにより、ユーザーをキャリブレーション作業の煩わしさから解放したハードウェアキャリブレーションモニターとして知られる。今春、このColorEdgeに新モデルのCX241およびCG247が加わった。ColorEdgeの中でも24インチは人気なので注目してみたい。それぞれ、CX240とCG246の後継機で、ハードウェアの性能はマイナーアップにとどまるが、CX241ではソフトウェア面でも改良がみられる。変更点に焦点を当てつつ、ざっと紹介していこう。

2 HDMI入力時の使い勝手が大幅に向上



背面のインターフェイスはDVI-I、DisplayPort、HDMI (I/P変換対応) の3系統を搭載。従来機は1,920×1,080ピクセルまでだったHDMIからの入力も1,920×1,200ピクセル表示が可能になった。HDMIでは表示色も8bitからDisplayPortと同じ10bit対応に変更されている

3 視野角が広く色むらや白浮きがない



IPS方式の液晶パネルを採用しているため、視点の変更によって白浮きや色変化が生じにくい。また、IPSでありながら黒色が非常に引き締まっているのは前モデルから継承した長所だ

液晶パネルは両機とも同じ24.1型ワイド (1,920×1,200ピクセル) のIPSパネルを採用している。前モデルと異なるのはカバーしている色域で、従来のAdobe RGB比が97%から99%に向上した。また、従来だとHDMI入力時の最大表示が1,920×1,080ピクセルになっていたが、新モデルではHDMI、DVI、DisplayPort、いずれの入力でも1,920×1,200ピクセルの表示が行える。そのほか、LEDバックライトの消費電力も改良がされており、冷却ファンも不要になった。結果としてCX241の標準消費電力は従来の38Wから31Wにまで抑えることに成功している (CG247

は41Wから32W)。ソフトウェアは従来からのColorNavigator 6およびColorNavigator NXを用意している。基本的な仕様や機能に大きな変更はないが、CX241は内蔵センサーによるプリセットモードの自動補正が可能になった。CX241のカラーモードはCustom、Paper、Adobe RGB、sRGBの4つを用意しているが、それぞれが経年変化に対応できるようになる。また、パラメーターの変更も行えるので、ムービーやゲームに適したモードを作ること可能だ。デジタルフォト一辺倒ではなく、汎用的に用いる人にも便利に使えるモニターだ。

最終的な出力先がプリントである場合、評価環境を用意する必要がある。最もお手軽かつ効果的な解決方法は、陽光の差し込まない環境もしくは夜間で、高演色性のデスクライトを使用することだろう。EIZOが発売したZ-80pro-EIZOは、まさに打ってつけの製品といえる。

Z-80pro-EIZOの光源は高演色LED (5,000K Ra97) を使用しているため、省電力でかつ長寿命である。山田照明と共同で開発しただけあって、アームの自由度は高い。テンションスプリングも付いているので、任意の位置でピタッと止まってくれる。固定はデスククランプなので、机上のスペースをさかずに済む。写真をプリントする人はもってにおいて損がない製品だろう。



吉村和敏がCX241 & Z-80proを体験。
 色にこだわりのある撮影をしている人なら、このセットはおすすめできる



今まで何度も出力して色合わせをしていたプリントが、一回の出力でぴったりと決まってしまう。これだけでもEIZOを使う理由がある



シャドウ部の表現力が向上したことは嬉しい限りだ。夜景は黒の中間調を締めると力強さが宿るが、その作業が容易に行えるようになった

CX241の液晶画面に現れた自分の作品を見たとき、忠実な色彩の再現性に驚かされた。スペインの透明な青空、緑輝く街路樹はまさに実物と接しているかのようで、特に白壁の美しさが目にしみた。ノングレア仕様の液晶パネルは、輝度や色度のムラやちらつきがないので、3~4時間作品のセレクトとレタッチ作業をしていても目が疲れてくることはない。まさにデスクワークが楽しくなってくるモニターだと思った。

注目ポイント

1 発光部は長寿命&省電力のLED



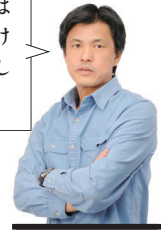
組み込まれたLEDの寿命は40,000時間、消費電力は11W。同社の蛍光灯スタンドZ-208-EIZOが7,500時間、19.5Wであるのに比べると圧倒的なパフォーマンスだ

2 ヘッド部分はハンドルで自在に動かせる



ヘッド部は移動しやすいようにハンドルがついている。それほど力を入れずに自在に動かすことができる

写真データを渡すときはプリントの色見本をつけるので、チェック用としては必須ですね



3 明るさは10~100%まで無段階で調整が可能

電源ボタンを長押しすると徐々に明るさが変わっていく。ボタンを離せば明るさが固定される。電源を落としても明るさは保持される

4 ジョイント部はスプリング搭載でなめらかな移動が可能

アームにはテンションスプリングを装備しているため、アームを水平にしたような状態でもガタついたり、唐突に倒れてしまうようなことはない。動かしたままの位置でしっかりと固定される

発売予定日: 2014年05月27日
 予想実勢価格: 38,000円前後 (EIZOダイレクト価格)

SPECIFICATION 光源:LED / カラー:ブラック / 全光束:659lm / 消費電力:11W / LED寿命:40,000時間 / 重さ:約1.2kg

さらに色にこだわる人向けのCGもバージョンアップ

EIZO ColorEdge CG247



発売予定日: 2014年4月24日
 実勢価格: 174,800円前後 (EIZOダイレクト価格)

CG247は元々の完成度が高いだけに変更点は少ないが、本体だけでモニタキャリブレーションのフローを完結できる利便性は大きな魅力だ (しかも作業は自動)。CX241にフードやセンサー、ColorNavigatorを買い足していくとCG247の価格にかなり近付くこともあり、最初からCG247をドンと購入するのも1つの手ではある。

